



# 防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第25号 NO. 025

日本防災士会横浜支部  
支部長 今井 淳  
事務局長 早乙女善彦

発行日 2018年1月17日

## 神奈川県湯河原町役場「防災講演会」実施報告

湯河原町役場において「災害時の自助・共助について」と題して、防災講演会を実施しましたので、ご報告いたします。

- 日時 平成30年1月14日(日)13:00~15:00
- 場所 湯河原町役場3階会議室(神奈川県足柄下郡湯柄輪町中央2-2-1)
- 参加者 富田町長、防災担当関係者4名、湯河原町の皆さん:40名
- 講師 日本防災士会横浜支部(支部長 今井淳、幹事 乾英昭)

### 講演会概要

富田町長あいさつ、今井支部長あいさつの後、乾講師から「災害時の自助・共助について」パワーポイントにより、1部「神奈川県における状況」2部「自助」「共助」について1時間45分の講演を実施、その後に質問の時間を設け、参加者からの質問を受けました。

特に講師からは災害が起きるのは明日かもしれないという意識をもって準備することが大切であることが強調されました。

災害時には個人・家族単位で自力で避難する「自助」、近隣住民など地域で助け合い、支え合う「共助」による地域防災力の強化が必要。地域の防災計画の確認や自助のための平常時の行動、地震が起きたときの具体的な行動について紹介。

また災害発生後、支援物資の配布などで町民が協力する必要であることから、住民が普段からあいさつを交わしたり、密接なつながりをもつことも大切である。といった説明を行ないました。高齢者の避難を考えるときにネックになるのがプライバシーの問題で、何処にどういう人が居るのか確認が難しい、また外国人に対する言葉の問題もあるなどの質問があり、講師より分かり易く丁寧な説明があり講演会を無事に終了いたしました。

この講演会の模様は神奈川新聞朝刊(1月15日)に掲載されました。



湯河原 自主防災意識を高めよう  
NPO法人「日本防災士会」横浜支部の乾英昭さん(左)が14日、湯河原町役場で講演した。乾さんは「災害が起きるのはあすかもしれない」という意識を持つことが大切とした。

地域防災計画の確認や家族会議開催など自助のための平常時の行動、地震が起きたときの具体的な行動について紹介。災害発生後、支援物資の配布などで町民が協力する必要があることから、住民が普段からあいさつを交わしたり、非常時の避難ルートを地域で確認し、これを取り組むべきだ、と話していた。(岩崎 千恵)

### 災害への意識 日頃から 自助・共助テーマに講演会

報告者:横浜支部長 今井淳